



# 学校だより

横浜市立矢上小学校

11月号 発行日 令和3年10月28日

## こころをつなぐあいさつ

副校長 直井 毅

「おはようございます。」「こんにちは。」「さようなら。」毎日、子どもたちの元気なあいさつを聞いて、気持ちの良い一日をスタートさせています。10月はいいさつ月間で、5・6年生の児童が校門であいさつをしていました。これは日吉台中ブロックでの「あいさつ月間」の取組で、中学校からもイラストが届いています。昇降口に掲示しました。地域全体であいさつの輪が広がり、温かな地域になるとよいと思います。



あいさつは何のためにするのか。誰のためにするのか。あいさつ月間を通して、子どもが考えられたことは素晴らしいと思います。あいさつは人とのコミュニケーションの第一歩であり、社会に出た時の振舞の基本です。

あいさつの大切さについて語られた方の言葉です。

- 人に好感を持たれたければ、誰に対しても挨拶をすることだ。挨拶ほど簡単でたやすいコミュニケーション方法はない。(デール・カーネギー 実業家・作家)
- あいさつと言っても、黙礼だけのあいさつでは意味がない。ちゃんと顔を上げて、声を出すことが肝心なのだ。(小出義男 マラソン指導者)
- 「あいさつ」とは何か。それは「心開いて相手に迫る」ということである。(鈴木健二 アナウンサー)

あいさつはこころとこころをつなぐ言葉です。「おはよう」「いただきます」「いってきます」「ありがとう」「おやすみなさい」・・・どれも聞いているとうれしくなるものです。あいさつが交わされる中で、こころがつながり、心地よい環境がつくられます。コロナ禍の中マスク着用で大きな声は出せませんが、気持ちの良いあいさつが学校、地域にいっぱい広がり、心がつながるようにしていきたいものです、今後とも本校の教育活動にご協力お願いいたします。